

さんぽ木とだより

2017
秋号
vol.22

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

永遠と一瞬

永遠を思い
一瞬を思い

ぶな林の

中に行く

わが生よ

美しくあれ

(真民
96歳)



ぶな林の紅葉

館長エッセイ

【第二十二回】

「普通に生きること」の大切さと難しさ

真民詩とわたし

碑縁に感謝して

医療法人徳真会グループ 理事長 まつむら ひろし 松村 博史 さん

真民詩を読み解く ②

高校野球史に残る松商一三沢の名勝負に
感動して生まれた詩「つみかさね」

記念館からのお知らせ

企画展の見どころはココ

日曜講座のご案内

コーヒープレイク

「純粹時間」から

「みめいこんとん」へ

【第二十二回】

「普通に生きる」との大切さと難しさ

私はもうすぐ69歳になりますが、この年になって、私は「独りの人間として普通に生きる」との難しさを実感しています。

「普通に生きる」とは「平凡に生きる」とは少し違うと思います。

毎日毎日を一生懸命、全力で生きて、「誰の花でもない、自分の花を咲かせる」「努力を続ける人」「普通に生きる人」と言うのであれば、独りの人間として生まれて、「普通の人間の生き方」を貫いて、「独りの普通の人間」として死んでゆく、これがなかなか難しいと思います。

人前に出て人々を引っ張るリーダーでもなく、人々から脚光を浴びるスターでもなく、自分のやるべき仕事を、人に知られず黙々と責任を持つてやり抜くことの出来る人が「普通に生きる人間」だと思います。

そして、世の中には、こういう人がたくさんいるのです。それを「庶民」

と言つてもいいかもしれませんが、としての矜持を持つて、静かに生きていく「名もなき人」がたくさんいるのです。

坂村真民の詩は、こういう社会の底辺で、真面目に一生懸命生きている人たちの「普通の生き方」に共感し、その生き方を自分も実践するために、「自分への戒め」として詠った詩が多くあります。

「前に出て引っ張る人」ではなく、「一緒に手をつないで歩いていく人」でありたい、大勢の人に向かって呼びかけるのではなく、目の前の一人の人に向かって語りかける人になりたいと思う真民の詩には、普通の人と共に歩もうとする心意気があふれています。

坂村真民の詩を読んでいると、時々この詩は自分に語りかけてくれている詩だと思ふ詩があります。それは、生きることに悩み、生きることに苦しむ、それでも前に向かって生きてきた坂村

真民の生き方に共感し、「そのとおりだ」「自分の心の悩みや苦しみを本当に分かってくれている」と思うからだと思います。

「詩記」（真民の思索ノート）を読んでいると、坂村真民の生き方とは、「普通に生きる」とであり、それを自分自身が実践し、詩にして詠っているのだということがよく分かります。

しかし、この「普通に生きる」ことが、なかなか難しいですね。ちよつと油断すれば、「楽に生きる」「手を抜いて生きること」を選んでいくし、人目を気にして「格好良く生きること」を考えているし、つい他人と比較して羨ましいと思つたりするものが多々あります。

「普通に生きる」という生活の軸を、自分の中心に置いて、真つすぐ歩くことは、非常に難しいことですが、時には横にそれたり、上に飛び上

つたりしながらも、こつこつと自分の出来る範囲で、人のため家族のために一生懸命働くことにより実践できるのだと思います。そして、これを貫き通した坂村真民の生き方を見習い、その詩を読むことによって、一歩ずつ普通の生き方に近づいていけるのではないかと考えています。

最後に坂村真民83歳の時の詩をご紹介します。

自分に合った生き方

ほお
朴の木

枝とい

葉とい

花とい

なんという自然さであらう

一本の木を見ているだけで

大地の心の深さが

しみじみとわかつてくる

わたしたちも

二度とないこの人生を

自分に合った生き方をし

自分自身を作りあげてゆこう

それが何よりの

幸せというものではないだろうか

「医療は人なり」の理念のもと、日本最大グループの歯科医院の代表を務める松村博史さんに、真民さんとのご縁を書いていただきました。

碑縁に感謝して

医療法人徳真会グループ 理事長
松村 博史 (65歳)



プロフィール

1952年、熊本県八代市生まれ。1981年、旧新津市(新潟市)に個人歯科医院を開業。小さい組織の限界を感じ、グループ化を決意し、また、診療スタッフが治療に専念できる環境づくりを実現させて、現在は、世界84拠点、スタッフ総数1300人、アジア最大規模の医療法人徳真会グループを率いている。著書は『日本でいちばん大きな歯医者秘密』(幻冬舎)など。



171番碑。新津市の秋葉山公園の仏舎利塔の脇に建立された

真民先生没後11年になりました。私が生前の真民先生とお会いしたのは5回程でしかなく、私以上に先生と直接交流された方々は多いと思います。しかし私にとって真民先生は、何度会ったかではなく、御生前もそして他界された今日も、変わらず私の心の中で生きておられる数少ない人生の師であられる方です。

私が真民先生に初めてお会いしたのは1991年の春でした。熊本で生まれ育ち、たまたま新潟大学へ進学した私が、縁もゆかりもない新潟県旧新津市で松村歯科を開業して10周年の記念として、お世話になった新津市に先生の石碑を寄贈したいと思って、先生の御自宅に伺ったのが最初でした。

舞先生でした。私は当初「二度とない人生だから」の詩碑を考えていたのですが、先生は「念ずれば花ひらく」の碑が良いと言われ、ついでに「生きた石を探してきなさい」と言われまして。新潟に帰ってすぐ石材屋さんを訪ねました。多くの石の中で私の目にとまったのが、青い色の2つの石でした。先生にその写真を送ったところ、これは伊予の青石で、真民先生の自宅の近くでとれた石だと言われびっくりしたのを思い出します。まさに、石が私を呼んでくれたと今でも思っております。



1991年10月 除幕式にて

真民先生直々に、石碑に額をつけて入魂して頂き「この碑は、魂の入った碑だから、自分の念を念じ続ければ、必ず念がかないます。周りの人にも伝えて下さい」と言われました。

そして秋葉山公園の碑は、仏舎利塔の脇に建った碑で、仏教に造詣の深い先生は大変喜んで頂き「パゴダのある街」という詩も書いて頂きました。

以来、26年の歳月が流れました。朝晩、自宅の石碑に額をつけ、まず真民先生に挨拶をし、それから自分の念を念じるのが私の日課となっております。真民先生の御存命中も、亡くなられた今日も変わらぬ、石碑との会話するひと時です。今では石碑に私の額の油がしみ込んでいて、歳月の重さを感じております。

入魂式の時、石碑の脇に植えた真民先生が愛された朴の苗木も、毎年少しずつ成長し、今年も3輪白く香しい花を咲かせてくれました。

そうした生活の中において、私の中では、真民先生はいつもすぐそばにおられ、毎日碑を通して語って頂いている様に思っております。

碑縁に心から感謝しております。

高校野球史に残る松商―三沢の名勝負に感動して生まれた詩

「つみかさね」

この詩は、坂村真民が60歳の時、昭和44年の第51回全国高等学校野球選手権大会決勝戦とその引き分け再試合をテレビで見て、その感動を詩に書いたものです。

夏の高校野球史に残る名勝負と語り継がれているこの試合を、ご存じない方に少し説明しておきます。

青森県代表の三沢高校と愛媛県代表の松山商業高校との決勝戦は、三沢が太田幸司投手、松山商業が井上明投手の投げ合いとなり、ゼロ対ゼロのまま延長戦に突入し、延長15回と16回には三沢高校が一死満塁のチャンスとなりますが、松山商業の鉄壁の守備陣はそれを守り抜き、延長18回ゼロ対ゼロのまま決勝戦初の引き分け再試合となります。そして翌日の決勝再試合で、見事松山商業が4対2で勝ち優勝するという試合です。

坂村真民が最も感動したのは、相手チームに絶対点を取らせない松山商業の鉄壁の守備陣と井上投手の絶妙の投球です。そしてこれを可能にした「鍛え抜く練習」です。

真民は、毎日書いていた「詩記」（昭和44年8月19日「詩記407号」）の中で「こんないい試合を見たことがない。こんな立派な試合を見たのは始めてだ。（中略）それは全く、人間を越えた美しいものがあつた。神技というより、精神力の花であつた。（中略）十代の若者たちが、老いた私に教えてくれた。その第一は鍛え抜く練習というものであつた。」

また翌日の詩記（昭和44年8月20日「詩記408号」）でも「この決勝戦は、私に大きな教訓を与えた。それは、日ごろのけいこ、訓練というものの大切さであつた。百連続ストライクを投げけいこ

をする。その中で一つでもボールが出たらまたやり直す。そういうけいこを続けたという松山商業の井上投手の話は、私の詩精進の生活の上に大きな教訓であつた。」と書き残しています。

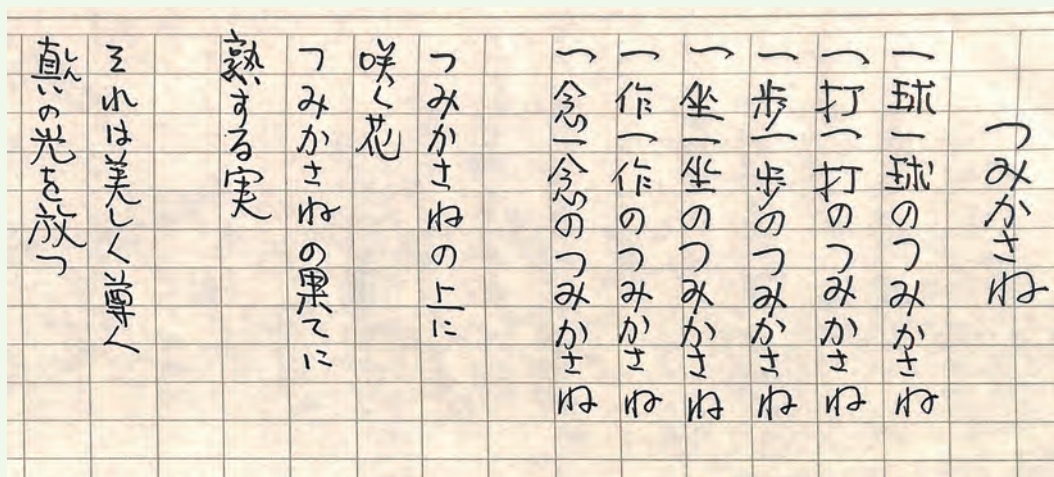
坂村真民が生きてゆくうえで、一番大切にしていた「こつこつと、自分の道をまっすぐ歩く」ことを松山商業の選手たちが教えてくれたのです。

禅の修行僧のような「厳しい修行」を自分自身に課して、毎日を生きてきた真民にとっても、この松山商業の選手たちの毎日の練習は、大きな教訓として感動を与えたのです。

現在開催中の企画展「坂村真民の世界 すべての人に真民詩を」は、第72回国民体育大会と第17回全国障害者スポーツ大会に参加される多くのアスリートと応援に来られる方々に、こつこつと努力する大切さを詠った詩や、人生で色んなハンディを持ちながら、それを乗り越えて生きる人々にエールを送る詩を多数書いている、真民の人となりとその詩を知ってもらうために、代表的な詩墨作品を全館で展示しています。その中でも、私が一番見てもらいたい作品がこの「つみかさね」です。

みかさね」です。

国体や障害者スポーツ大会に参加する選手と応援に訪れる人々にも、しっかりと伝わる詩であると思っています。





企画展の見どころはココ

えひめ国体特別企画展「坂村真民の世界—すべての人に真民詩を—ようこそ砥部町へ ようこそ坂村真民記念館へ—」展(第2部のご紹介)

期間

第1部:平成29年 6月17日(土)～11月12日(日)

第2部:平成29年11月18日(土)～平成30年2月25日(日)

第1展示室

国体及び障害者スポーツ大会へ参加する選手、応援の人々に、坂村真民の人となりとその詩の魅力を知ってもらうため、記念館所蔵の真民詩の詩墨作品のなかから、代表的な作品を取り揃えて展示します。

とりわけ「こつこつと努力する大切さ」「困難の中でも生きる希望と勇気を持つことの大切さ」を詠った詩や、

「人生で色んなハンディを持ちながら、それを乗り越えて生きる人々へエールを送る詩」を展示し、スポーツ関係者や障がい者に見てもらいたいと思っています。

【主な作品】

「二度とない人生だから」「タンポポ魂」「つみかさね」「こつこつ」「若者よ」

第2展示室

「家族の絆」をテーマとした作品を展示しています。

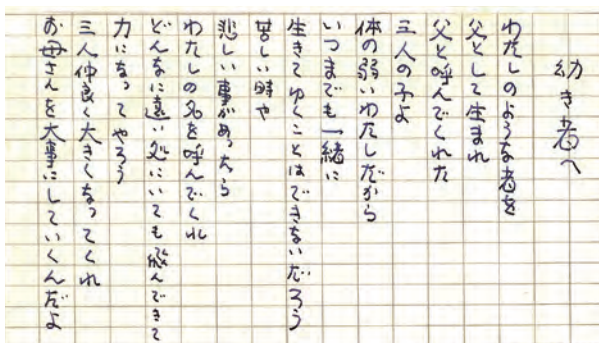
坂村真民の詩で一番多いのは、家族を詠った詩。真民詩に出てくる坂村家の家族、妻と三人の娘たちは、本当に貧しさを貧しさと感じることなく、厳しい生活の中でも精一杯、楽しく幸せに毎日を生きています。

家族を詠った詩こそが、人間としての優しさ、純粋に妻や子を想う気持ちをいつも持って、「純粋に生きることを求め続けた」坂村真民の生き方の真髓を詠っていると思います。

真民詩の詩墨作品には、家族を詠った詩はほとんどありません。しかし今回は、全詩集の原稿から「真民直筆の原稿文字」の詩を選び展示しています。

【主な作品】

「六魚庵天国」「三人の子に」「あの時のことを」「クリスマスツリー」「飯台」「幼き者へ」



「真民さんの詩や随筆と一緒に読みませんか」

日曜講座のご案内

毎月第3日曜日(原則)に一般の方を対象とした日曜講座(一般)を開設しています。本講座は各1回で完結する講座です。坂村真民について興味をお持ちの方ならどなたでもお気軽にご参加いただけます。

真民詩集または真民の随筆集を順番に採りあげ、その中から5～6篇の詩または3～4小節を選び、その意味と背景について館長が分かりやすく解説します。その後参加者の皆様と意見や感想を交換しながら、真民について理解を深めていただくための講座です。

現在は、随筆集「愛のみちるべ」を採りあげ、毎回15～20ページずつ読んでいます。どうぞ、お気軽に参加して、真民の生きてきた足跡と一緒に辿ってみませんか。



開催
日程

〈29年度〉

9月17日、10月は休み、
11月26日、12月17日、
30年1月は休み、2月11日、3月18日

時間

10時30分～12時

募集人数 20名

お申し込み方法

日曜講座の受講を希望される方は、お電話またはFAXで以下の項目を、受講日の1週間前までにご連絡して下さい。

〈必要事項〉

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④受講を希望する講座名
⑤受講を希望する日 ⑥年齢 ⑦性別

〈電話〉089-969-3643

〈FAX〉089-969-3644

〈メール〉info@shinmin-museum.jp

コーヒー
ブレイク

「純粹時間」から 「みめいこんとん」へ

浮かんでくるので、現代の若者の共感をも呼ぶ詩が、ズラリと並んでいるように思えます。そんな中から。

純粹時間

いつも三時、四時に起きるつて？
何をしているの？

人はいぶかしげに問う

わたしははたと笑っているだけだが

何もしていない日もある

ぼんやり夜明けを待つ日もある

リルケのことを思ったり

セザンヌのことを考えたりして

ただ坐っている日が多い

しかしわたしにはこの空白の時間が

一番大事だ

夜明け前の静かなひととき

自分の世界を築きながら

独り坐っている

純粹なひとときが一番たのしい

「かなしきのうた」より

思索と詩作の貴重なひと時
真民さんは30代の終わり頃から詩を作り始めています。

初期の作品は、生活にもがいている姿、何とか自分を作ろうとするがむしや・らな姿を、暮らしのシーンを取り取って語っています。

まだ宗教色も薄く、具体的な情景が

若い頃から真民さんにとっては、夜更けのひと時が、「純粹時間」として、思索と内省を深める貴重な時間だったことがわかります。夜明けの雲も光も聖なる特別なものでした。

序詩 三

わたしが願うのは
一韻の

純粹な詩

朝の雲のような詩

「三昧」より

夜明けの光

カーテンに

夜明けの光がにじんできると

不思議に生き堪えた

わたしをつつんでくれる

この清らかな光よ

「静かな愛」より

命の躍動を感じ、宇宙の摂理をつかみとるのは、靈気あふれる夜明け前で、この純粹な時間は、その後、代表作「みめいこんとん」（朴に所収）に結実していききました。

早くから、森羅万象が放つ夜明け前のエネルギーが、真民さんの詩と魂を形成していったのです。

好評発売中

『坂村真民記念館公式ガイドブック』（改訂版）

真民さんと記念館のすべてを凝縮

朴の表紙が目目を引く公式ガイドブック改訂版。ボリュームアップした本書では、この5年間に開催された15回の企画展・特別展を詳しく紹介しています。所蔵作品と解説コーナーでは、詩墨作品のみならず、原稿用紙に書いた手書き作品も加わり、より充実した内容。

真民さんと記念館のすべてを凝縮した一冊です。

A5判、168ページ 発行元：株式会社えひめりびング新聞社 価格：1000円（税別）

※坂村真民記念館や愛媛県内の主要書店でお求めください。





経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム To-be

78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



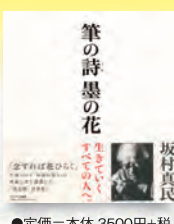
住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

18居室/2LDK 40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

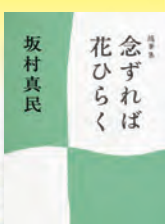
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!



10万部突破の
超ロングセラー!

詩集
念ずれば花ひらく



詩集●定価=本体各1000円+税

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

詩集二度とない人生だから



医療法人 徳真会グループ



医療法人
徳真会グループ

「医療は人なり」の診療理念のもと

患者さま第一主義の歯科医療グループです。

国内にデンタルクリニック31ヶ所、メディカルクリニック1ヶ所を展開し、年間90万人の治療に携わっております。

徳真会 検索
www.tokushinkai.or.jp



新潟 Niigata	
松村歯科 新潟診療所	☎025-201-1885
松村歯科 新潟診療所 *	☎0250-24-6688
おぎかわ歯科	☎0250-23-4880
まつむらデンタルクリニック 水原診療所	☎0250-62-2151
まつむらデンタルクリニック 津川診療所	☎0254-92-0150
松村歯科 関川診療所 *	☎0254-64-1201
しらとり歯科	☎0256-72-1771
松村歯科 長岡診療所	☎0258-28-4108
まつむら第二歯科	☎0258-31-7202
まつむら歯科 柏崎診療所	☎0257-20-0310
まつむら歯科 高田診療所	☎025-521-6780
松村歯科 上越診療所	☎025-522-6001

宮城 Miyagi	
名取デンタルクリニック	☎022-381-0921
青葉デンタルクリニック	☎022-348-2125
青葉第二歯科	☎022-348-1085
青葉西デンタルクリニック *	☎022-302-7087
利府デンタルクリニック	☎022-766-4130
いずみデンタルクリニック	☎022-253-1588
石巻デンタルクリニック	☎0225-25-5088
あすと長町デンタルクリニック *	☎022-399-6688

大阪 Osaka	
みのおデンタルクリニック	☎072-749-2080
江坂第二歯科	☎06-6310-7660

福岡 Fukuoka	
はかた中央歯科 *	☎092-892-5134

東京 Tokyo	
USTINY DENTAL INSTITUTE *	☎03-6431-8633
松村歯科 駒込診療所	☎03-3949-8818
まつむら歯科 立川診療所	☎042-538-1088
わかば台デンタルクリニック *	☎042-350-5671
練馬高野台デンタルオフィス 練馬訪問歯科センター *	☎03-5923-1167
徳真会クオーツタワー 総合案内	☎03-6362-6688
・クオーツホワイトデンタルクリニック 3F (オーラルケア・エステ、ホワイトニング)	☎03-6362-6683
・青山クオーツデンタルクリニック 4F・5F	☎03-6362-6688
・クオーツデンタルクリニック 7F	☎03-6362-6688
・クオーツメディカルクリニック 8F (内科、皮膚科、頭痛外来)	☎03-6362-6680

* 歯科訪問診療 * 保育施設併設

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉 国体と障害者スポーツ大会の開催日が近づいてきました。全国から砥部に来られる選手・応援団の方々が記念館に来館されることを期待しています。職員一同精一杯のおもてなしをしたいと思いますので、どうぞお知り合いの方に坂村真民記念館へ行くように勧めてください。もちろん国体と関係なく記念館に来られる方々にも「おもてなし」の精神でお待ちしていますので、どうぞよろしくお願いいたします。(西)

タンポポだより vol.22 秋号

平成29年9月1日発行 表紙写真：西澤孝一

発行元／坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり